

ぱちんこ 言葉物語

22

今やこの言葉はパチスロで使われる
ケースがほとんどとなっていきます。しかし
パチンコでも過去の名だたる名機に設定付きの機種が存在していました。
その栄枯盛衰の原因は何だったのでしょうか。

「3段階」が主流だった
パチンコにおける設定とはパチスロと同様で、「大当たり確率を数段階の中で任意に決めることができる機能」で、その設定内容はパチスロと同様で外部から判別はできません。この設定機能を「パチコン」として全面的に導入し登場したのが、1991年登場の瑞穂製作所「GIGA」という機種です。

この機種では当たり確率を、390分の1から222分の1まで6段階に任

凡 記 定

今回の言葉物語は「設定(パチンコ)」をテーマにしてみたいと思います。

今やこの言葉はパチスロで使われるケースがほとんどとなっていきます。しかしパチンコでも過去の名だたる名機に設定付きの機種が存在していました。

その栄枯盛衰の原因は何だったのでしょうか。

パチンコにおける設定とはパチスロと同様で、「大当たり確率を数段階の中で任意に決めることができる機能」年登場「CR花満開」を忘れるることは出来ません。

CR花満開は269分の1、289分の1、308分の1と3段階に当たり確率を設定でき、新装開店やイベント開催時などで設定を変更していく

した。初当たり確率の軽さと強力な大当たりの継続性から瞬く間に一大人気機種となりました。

その後、「CRバトルヒーローV」や「CRファイアーワールドI」など

の設定搭載機も登場し、長きに渡りパチンコホールをにぎわせて来たことは、ベテランの業界人であれば誰しもが知るところです。



リーチはノーマルリーチ1種類のみだが大人気となった「CR花満開」

パチスロにおいても、熟練のユーザーほど新機種の導入当初で過剰な投資をすることは少なく、雑誌での解析結果が出た後に立ち回りを考えていくことが多いです。

「中身がわからない状況での闇雲な投資は行いにくい」環境にあると考えられる中で内部確率を判断することができない設定搭載機付きパチンコは、そのままの形では支持を得ることは難しいと考えられます。

また、設定推測などが出来るパチンコ機が仮に登場したとしても、攻略するユーザーに占拠され、本来の還元ができるユーザーに偏る恐れもあります。

しかもそれ以前に、現在の大当たりフローや振り分けが複雑化しきている問題も取り組まなければなりません。

従つて設定搭載機パチンコは「ユーザーへの周知徹底と理解無しには今後の発展は考えにくい」という仮説になります。

封入式パチンコの登場などパチンコ業界も大きな変革期を今後迎えて行くわけですが、より多くの方が楽しめるパチンコ機の登場により、再び多くのユーザーが店舗に足を運んでくれることを願つて止みません。(天和田敏男)

パチンコにも盛んな一時代